

歴史と伝統を学ぶ施設を活用して実施！

新たな体験先を開拓し、成果を生んだ体験活動の先進例

協力！自律！友情！～感動体験～

福山市立広瀬小学校 対象学年（5・6年）

【体験活動場所・宿泊場所】岡山県備前市・閑谷学校

【実施期間】平成26年8月5日（火）～8月8日（金）

【学校紹介】

○近況：本校は、福山市の北部（標高400m）の山あいに位置し、豊かな自然に恵まれ四季折々の美しさを呈している。準へき地に指定され小規模校のよさや特性を生かし、保育所・中学校との連携教育を中心に、地域とのかかわりを大切にしながら、“感謝・感動・感性”をキーワードに取り組んできた。



少人数のためにきめ細かい指導ができるが、一方で大人が手をかけすぎる面がある。そのことが、児童の自立をはばむ要因にもなっている。児童は、新しいことに挑戦することへのためらいや不安があったり、周りからの援助を待つ傾向にあったりする。そのため、この3泊4日の宿泊体験活動では、やればできるという自信をつけさせ、失敗を恐れずに主体的に活動しようとする意欲や実践力を育てていきたいと考えている。

- 校長名：河野 由美子
- 児童数（学級数）：25名（4学級）
- 所在地：福山市加茂町北山714番地2
- 電話番号：(084) 972-2173
- Eメール：shou-hirose@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp

【体験活動のねらい】

- 本活動を通して、共同生活の楽しさとルールを守ることの大切さを学び、社会性・協調性を育成する。
- 本活動を通して、自主自立の精神や創意工夫の意欲を高め、生きる力を育成する。
- 本活動を通して、互いのよさに気付き、人間関係を深める力を育成する。

【日程（活動プログラム）】

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
	朝の活動			午前活動				午後活動				夜の活動							
第1日				入所式	入室	昼食	講堂学習 史跡見学	スコアオリエンテーリング			夕食	備前焼 体験	入浴	反省	就寝 準備				
第2日	起床	朝のつどい	清掃	朝食	学習	準備	うどん打ち体験 (うどん昼食)		移動	カヌー体験	移動	夕食	準備	木工 キュービック 作り	入浴	反省	就寝 準備		
第3日	起床	朝のつどい	清掃	朝食	学習	準備	移動	野外炊さん (カレー作り)	移動	準備	まが玉作り	ニュースポーツ (ドッジビー)	夕食	準備	移動	キャンプ ファイヤー	移動	反省	入浴
第4日	起床	朝のつどい	清掃	朝食	退室準備	点検	準備	ブラインドツアー アドベンチャー体験	昼食	退所式									

【参加児童の学年別、男女別数】

学年	男子	女子	合計
5学年	4	3	7
6学年		2	2
(特別支援学級)		1	1
総計	4	6	10

【歴史と伝統に学ぶ施設を活用した体験活動を実施する上でのポイント】

＜工夫点や留意点＞

- 事前に関谷学校の歴史を学習し、児童にその地で学ぶことへの高揚感をもたせる。
- 教師は、事前に現地の下見をし、写真等でプレゼンを行いより現地を具体的にイメージさせる。
- 重要文化財に立ち入るマナーや作法を学び、日本文化のよさや誇りを体感させる活動を仕組む。
- 児童の達成感や自立を図るために、教師は、児童が自ら動けるように活動の前後に打ち合わせ会を持ち、待ちの姿勢で見守る。児童が、相手意識と目的意識と安全面をいつも意識しながら行動できるように指導していく。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置付け	実施場所	指導者
6月 ～ 7月	事前学習 ○自律的な生活1-(3) ○男女の友情と協力2-(3)	2	道徳	学校	担任
	○下調べ	2	総合的な学習の時間	学校	担任
	○めあて・役割分担	2	学級活動	学校	担任
8月 5日 ～ 8日	集団宿泊活動 <宿泊体験活動> ○講堂学習 ○スコアオリエンテーリング ○備前焼体験 ○うどん打ち体験 ○カヌー体験 ○創作活動 (木エキュービック・まが玉) ○ニュースポーツ体験 (ドッジビー・ペタンク) ○野外炊飯 ○キャンプファイヤー ○ブラインドツアー ○アドベンチャー体験	24	学校行事	岡山県青少年教育センター 関谷学校 (カヌー体験のみ：吉永海洋センター)	担任 本校職員 関谷学校 指導員 吉永海洋センター 指導員
9月	事後学習 ○活動のまとめ	1	総合的な学習の時間	学校	担任
	○体験活動作文	2	国語	学校	担任
	○お礼の手紙	1	学級活動	学校	担任

	○全校へニュースポーツの紹介	0.5	業間(わくわくタイム)	学校	担任
	○みんなの中の自分4-(3)	1	道徳	学校	担任

【体験活動の概要】

○身がひきしまった講堂学習！ ～論語の朗読～

備前藩主池田光政が、人づくり・国づくりのために儒学を学ぶ必要性をとき、武士だけでなく庶民の子どもたちを育てる場として築いた閑谷学校。その340年の歴史と伝統を持つ漆塗りの講堂で、昔ながらの学習や作法を体験した。学習体験では、論語の朗読をし、その意味するところを解説してもらいながら学びを深めた。3泊4日のスタートにふさわしい緊張感のある学習ができ、これからの活動への期待感が高まった。

指導に当たっては、事前に伝統ある建物を守り受け継ぐことの素晴らしさや大変さを話し、学習に対する構えを指導した。



○こしがあり絶賛したうどんの味！ ～うどん打ち体験～

初めてうどん打ちに挑戦する。粉からうどんの形にする調理法を熱心に聴き、力を入れてこねあげていく。友だちと協力しながら進めていく。どのグループも、念には念を入れていねいに作業をこなしていく。そして、手順を守り、美味しい手作りうどんが完成した。その出来栄えに児童たちは大満足だった。

指導に当たっては、食品を扱う上での衛生面(手洗い・清潔な服装等)に気をつけるとともに、協力して美味しいうどんをつくることをめざして取り組ませた。



○水の上をいざ滑走！ ～カヌー体験～

吉永海洋センターにおいて、カヌー体験を行った。初めは怖がっていた児童たちだが、カヌー操作に慣れるにつれて、意欲的に漕ぎ始めた。水の上をスイスイ漕いで行く。友だちと競ったり、

並んで漕いだりしてカヌーの楽しさを満喫した。体験後、まだやりたいという声がたくさん聞かれた。初めての体験に挑戦する楽しさを感じ、うまくできるコツを各自学んだ。

指導に当たっては、水の事故を防ぎ、カヌー操作を確実に覚えるために指導員の方の説明をよく聞き、安全な操作を心掛けるよう事前指導した。



○プロから学ぶ焼き物体験！ ～備前焼～

地元の備前焼作家を講師に招き、直接指導を受けながら作品づくりに取り組んだ。講師の実演では、1つの塊の粘土があつという間に花瓶や茶器に変わる手さばきに見とれていた児童たち。いざ、自分たちがやってみようと思うようにいかず、何度も作り直してやっと完成することができた。粘土を無心にこねる児童たちの姿や創作意欲に、新たな発見をした。

指導に当たっては、作業で使用する道具でけがをしないように注意を促すとともに、この地域のよさを生かした伝統工芸に触れる貴重な体験の意義について指導し取り寄せた。



○かっこいいニュースポーツ体験！ ～ドッジビー～

閑谷学校の指導員の方にニュースポーツ（ドッジビー）を教えて頂いた。このスポーツは、フリスビーとドッジボールを合わせたスポーツである。柔らかいフリスビーを1～3枚使ってドッジボールを行う。初めは、フリスビーが思うようにコントロールできず悪戦苦闘していた児童たちであったが、慣れてくると白熱のゲームを演じるようになった。初めは1枚だったフリスビーが4枚まで増えていった。前や後ろや右や左、どこからやってくるかわからないひやひや感。作戦を立てながらスピードが増していくわくわく感。球に当たっても「しまった！次はあたらないぞ！」とすぐ切り替えができるスポーツ。歓声を出しながら動き回った。

学校に帰ってから、高学年がリードした仲間づくりを目的にドッジビーを購入した。あの楽しさが忘れられずにいる児童たちは、声をあげて喜んだ。手取り足取り低学年に説明した。見本を示しながら教えてくれる高学年の姿が、かっこよく頼もしく見



えた。全校遊びをするわくわくタイムもドッチビー！雨の日の体育館での遊びも、もちろんドッチビー！体育の時間、5分のドッチビータイムに歓声をあげる児童たち。今では、全校で遊ぶ本校の人気スポーツの一つになった。

【体験活動の効果を高めるための取組のポイント(事後学習)】

○体験活動作文（国語科）

『活動のしおり』を見ながら、活動や生活のようすを振り返り、宿泊体験活動で学んだことを感想文に書いた。全員で協力することの楽しさ、自分たちで考え学び思考錯誤しながら実践することの大切さ、友情が深まった友だちの新たなよさなどを生き生きと作文に表現することができた。

○お礼の手紙の作成（学級会活動）

閑谷学校でお世話になった指導員や施設の方にお礼の手紙を書いた。手紙の書き方について再確認するとともに、心に残ったことや自分が学んだこと、感謝の気持ち等を心を込めて書いた。書いた手紙は、模造紙に張り、1枚の掲示物として閑谷学校に贈った。

○わくわくタイム(業間遊び)

児童会が中心となって遊びに取り組む月1回のわくわくタイムで、体験活動で教えてもらったニュースポーツのドッチビーを全校に紹介した。児童会でやり方やルールを説明し、取り組んだ。初めは、難しさを感じていた低学年の児童たちも、慣れてくると声を掛け合ってきた。チームで作戦を立てて全員で楽しむようになってきた。高学年が低学年に優しく教える姿も事あるごとに見られた。

【交流先や施設等との連携及び安全面の配慮事項】

<交流先や施設等との連携>

事前	○電話での連絡で、打ち合わせ日時の調整を行った。 ○現地視察を2回行い、研修日程の調整及び施設の見学を行った。 ○利用前日まで、電話で人数変更・食事変更の調整を行った。
活動中	○常に児童の体調面と安全面に配慮しながら、指導員と打ち合わせを密にして活動を実施した。
事後	○お礼の電話をし、感謝の手紙を送付した。

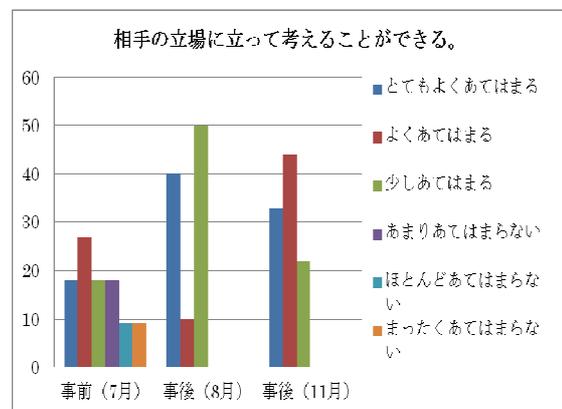
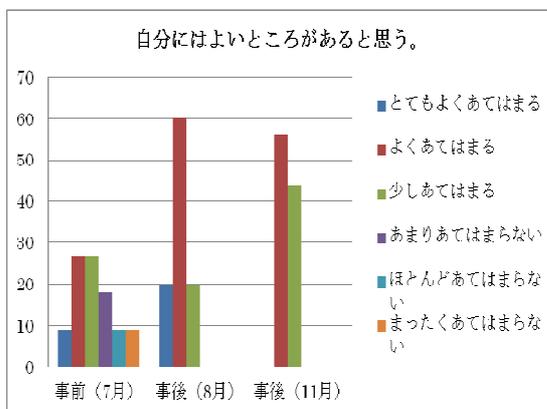
<安全面の配慮事項>

児童の体調面	○事前の健康診断の実施 ○お茶・飴等で水分・塩分の確保（熱中症対策） ○長袖・長ズボン等準備（けが・虫さされ対策） ○食事等の確認・打ち合わせ（アレルギー対策）
管理・運営面	○保護者への事前説明会の実施 ○引率教員同士の情報の共有（配慮が必要な児童への取組等） ○無理のないスケジュールの作成 ○閑谷学校指導員との事前打ち合わせ
児童への指導面	○体験活動における相手意識と目的意識と安全意識の醸成 ○共同生活のマナーの確認と徹底 ○活動中には教師は口を出さず、児童が考え行動できるように指導

【体験活動の成果と課題】

○成果

4日間という十分な活動時間が確保された中で、児童は主体的に考え行動することができた。「協力・自律・友情」をキーワードに自分を見つめ直し、友だちとの関係を深めることができた。参加児童に対して実施したアンケート調査を分析すると、「自分にはよいところがあると思う。」という「自尊感情」を表す項目や「相手の立場に立って考えることができる。」という「思いやり」を表す項目が、事前アンケートでは40%の児童が「あてはまらない」と回答していたが、事後アンケートでは全ての児童が「あてはまる」と回答した。これは、宿泊体験活動において他者との共同生活や多くの体験をし、相手の立場になって考え行動することの大切さを学んだりいろいろなことができる自分を再認識し自信を深めたりした結果であると考えられる。



<児童の感想>

○ぼくは、この3泊4日の野外活動を通して3つの目標（自律・協力・友情）は守れたと思います。協力は、みんなで話し合いながら進めることができたので守れたと思います。自律は、みんなで工夫しながら乗り越えられたと思います。友情は、みんなと話したりして前よりか深まったと思います。ぼくは、このことからみんなで協力すれば何でも乗り越えられるなど思いました。

○私は、この4日間を振り返って、できないことができるようになったのでよかったです。それと、「協力・自律・友情」の目標も守れたと思います。「協力」は、みんなで山を目かくししながら下りたりして深まったと思いました。特に、キャンプファイヤーのスタンプの練習をよくがんばったと思います。「自律」は、まが玉や木工キュービックなど自分で工夫し、気に入ったものができるまでがんばりました。「友情」は、みんなで一緒に食事の用意や部屋での話し合いや掃除をすることで、今まで以上に友達のことが分かったと思います。私は、この3つの目標が守れて、本当にうれしかったです。

○私は、「協力・自律・友情」のすべてが深まったと思います。「協力」は、ブラインドツアーなどで「ここに～があるよ。気をつけて。」や「順番に後ろに言った方がいい。」など意見を言い合って、どうすれば後ろの人たちにまで情報を伝えられるか、どうすれば効率よく下ることができるかなどしっかり考えることができたと思います。「自律」は、特にオリエンテーリングで

一番元気な人が一番疲れている人の荷物を持つとか、少しペースを上げながら一定のスピードで行った方が疲れにくいなど話し合っただけで行動することができたと思います。「友情」は、うどん打ち体験などで深まったと思います。理由は、「～さん、洗い物をしているから手伝おう」とか「うどんの足ふみかわろうか」というような声がたくさん出ていて、すごくみんな「誰かのために」という気持ちを持っているんだなと改めて分かりました。これからは、みんなに負けないように、もっとみんなのことを考えた行動をとっていきたいと思います。

○カヌー体験では、友情が深まったと思います。初めてのカヌー体験で、慣れるまで難しくてぶつかりそうになりました。その時、友達が気を使って、近づいてきて教えてくれました。ぼくには、そのやさしさが心に残りました。うどん作りでは、協力が深まったと思います。理由は、みんなで役割を分担して、交代しながら作り上げたからです。本当に美味しかったです。

○ぼくは、飯盒炊きで、みんなで分担して協力してできたのでよかったと思います。ドッチビーでは、チームで作戦を考えながら楽しむことができました。まが玉づくりでは、自分で工夫してねばり強くみがいていき、最後に完成した時はすごくうれしかったです。お母さんへのよいプレゼントになりました。

また、保護者にアンケート調査を行った結果、今回の体験活動を通して子どもが成長したと感じる保護者の声が多く聞かれた。

<保護者の声>

- いろいろな体験があり、困ったことなどを乗り越えて力をつけ、力を合わせることを知り、自信が付いて強くなったと思います。
- 自らが進んで挑戦する姿が見受けられ、又、仲間との会話を通して家庭でも学校生活の話をする機会が増えました。
- 言われなくても進んでできるようになったことや兄とのけんかが少なくなったことが成果だと思います。
- 成長という言葉で当てはまるか分かりませんが、2学期からは、学校生活又家での役割分担の仕事について積極的に活動しているように思います。野外活動がとて心に残る夏休みだったようです。
- 野外活動で料理をすることも多かったせいか、夕食作りの手伝いを今まで以上にしてくれるようになりました。
- 今までにない経験をしたと思うので、よかったと思います。

○課題

児童たちは、宿泊体験活動を通して新たなものへ主体的に挑戦する心地よさを会得した。そのことから自分のよさや友達のよさを見つけることができたり、積極的な行動が見られたりした。しかし、11月のアンケート結果では、「とてもよくあてはまる」と回答した児童の割合が下回った。これは、宿泊体験学習で身につけた力を継続していく取組が不十分であったためと考える。宿泊学習で培った力を日々の生活と関連付けて意味づけたり価値づけたりしていく必要がある。

児童が主体的に自分を成長させ、自分のよさを発揮できるような取組を今後も進めていきたい。